

第 17 回日本在宅医学会もりおか大会 一般・指定演題

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	地域包括ケアシステム時代のリハビリテーション ～釜石リハ士会設立の経緯と意義～
演者名	菅原章(OT) ¹⁾²⁾ 東孝喜(PT) ¹⁾³⁾ 小田島史恵 ⁴⁾
所属	1) 釜石リハビリテーション療法士会 2) あかね会訪問リハビリテーション事業所 3) せいてつ記念病院 4) 在宅医療連携拠点チームかまいし

【目的】

大規模災害時の支援活動を迅速かつ円滑に行うため、及び地域包括ケアシステムにおいてリハビリテーション(以下リハ)が役割を果たすために、医療圏単位でのリハの組織化が必要と考え、平成 25 年 7 月に釜石リハビリテーション療法士会を設立した。

【会の成り立ち】

平成 24 年 7 月に釜石市が設置した在宅医療連携拠点チームかまいし(以下チームかまいし)が職能団体単位の連携を重視していることがきっかけとなった。釜石圏域リハビリテーション広域支援センターの専門部会として設立し、正式名称を釜石リハビリテーション療法士会、略称を釜石リハ士会とした。

【会員資格】

釜石圏域内に勤務する PT・OT・ST 全員とし、発足時点での会員数は 38 名である。

【役員構成】

会長 1 名(PT)、副会長 2 名(PT・OT)、事務局 2 名(OT・ST)

【活動方針】

1. 大規模災害時の初動対応
2. 地域包括ケアシステムに貢献
3. 研修会企画や介護施設への講師派遣

【初年度の活動実績】

チームかまいし合同主催による多職種対象研修会開催(1 回)

家族介護教室(3 回)

被災した県立病院新築計画における環境評価委員会への参画

行政主催地域連携会議への出席(1 回)

リハー薬連携の実現(1 事例)

【考察】

東日本大震災を経験して、災害支援と地域包括ケアシステムには常日頃からの行政・医療・介護・リハの連携が重要だという共通点があると感じた。そのためにはリハが必要な場面で適切な対応が可能となるような体制をリハ側が作っておかなければならない。また、連携にはコーディネイト役が必要だが、釜石リハ士会発足初年度に研修会開催、会議参加、リハー薬連携等が実現したのは行政組織の一部であるチームかまいしの協力があつた。今後の課題は、多職種連携の前段階として、会員間で組織化の意義や今後の方向性についてじっくりと話し合い、コンセンサスを形成する努力を続けることが大切であろうと考える。